

検診項目の詳細説明

リケン健保の特定健診およびがん検診

I 特定健診（無料） ＊リケン健保の健診は[国が定めた特定健診]の項目に、胸部X線・心電図・赤血球数・ヘモグロビン検査を加えて実施します。

No.	検 査 項 目		検 査 項 目 の 説 明
1	既往現病歴・家族歴・業務歴の調査、自覚・他覚症状（病気の症状が医師や観察者に明白にわかる症状）の有無		
2	身体計測	① 身長 ②体重 ③肥満度 ④標準体重	
		⑤BMI	BMI (Body Mass Index) = 体重(kg) ÷ 身長(m) 18.5未満は低体重、25.0以上が肥満。
		⑥腹囲値(35歳以上)	男:85cm未満、女:90cm未満 体脂肪には皮下脂肪と内臓脂肪があり、メタボリックシンドロームの判定ベースとなる内臓脂肪の蓄積度をみる。
3	呼吸器系	①胸部X線	胸部のレントゲン写真で、腫瘍、結核、炎症性疾患などの胸部の病気や、心臓の大きさなどを調べる検査。
4	循環器系	①血圧	収縮期:130mmHg未満 拡張期: 85mmHg未満 心臓から大動脈に送り出された血液が、血管壁に加える圧力。心拍出量(心臓から送り出される血液量)、末梢血管抵抗(末梢動脈の血液の流れにくさ)、循環血液量(体内を循環する血液量)、血液粘稠度(血液のドロドロ度)、大動脈の弾力などがあり、なかでも心拍出量と末梢血管抵抗が影響大。高いと心筋梗塞や脳卒中の恐れがある。
		②心電図	心臓拍動時に発生する微細電気の強弱を波形グラフ化したものが心電図。心機能・不整脈等の状態を調べる。
5	血清脂質	①中性脂肪	30～175mg/dℓ未満 特定健診での空腹時中性脂肪150mg/dℓ未満。やむを得ない場合は随時中性脂肪175mg/dℓ未満 中性脂肪は主に糖分やアルコールなどが脂肪に変わったもので、エネルギー源として使われる。多すぎると脂肪肝や動脈硬化をすすめ、さらに内臓脂肪や皮下脂肪として蓄えられる。
		②HDLコレステロール	40mg/dℓ以上 血管壁に付着したコレステロールを運び去る機能があり、値が低いと動脈硬化や心臓病の危険がある。
		③LDLコレステロール	140mg/dℓ未満 特定健診では120mg/dℓ未満。血液中に増加したLDLコレステロールは血管壁にたまり、単独で動脈硬化を進行させる。
6	腎・泌尿器系	①尿たんぱく ②クレアチニン ③eGFR(推算糸球体ろ過量)	陰性(-) 男:1.00以下 女:0.70以下 90ml/min/1.73m ² 以上 腎臓に異常があると蛋白が漏れ出ることがある。腎臓などの異常を見つける。 クレアチニンは老廃物の一種で、腎臓の機能に問題がなければ尿中に排泄される。腎機能に障害が起こると排泄できなくなり、血液中に増えてくる。 eGFR値は、腎臓がどれくらい老廃物を尿へ排泄する能力があるかを示す。この値が低いほど腎臓の働きが悪い。性別・年齢を考慮して算出する。
7	肝・胆・膵系	①GOT ②GPT	30u/ℓ以下 肝臓や心臓などの細胞に含まれる酵素で、異常があると量が増える。
		③γ-GTP	50u/ℓ以下 肝臓の解毒作用に関係する酵素で、とくにアルコール性肝臓障害で高くなる。
8	代謝系	①尿糖	陰性(-) 尿中に糖が出ているかを調べ、糖尿病の危険をチェック。
		②空腹時血糖	100mg/dℓ未満 やむを得ない場合は随時血糖。血液中のブドウ糖を調べる。糖尿病、膵炎、甲状腺疾患で高値になる。
		③ヘモグロビンA1c	6.0%未満 特定健診では5.6%未満。高血糖状態が長期間続くと、血管内の余分なブドウ糖が体内の蛋白と結合。何種類かあるヘモグロビン(Hb)のうちのグリコヘモグロビンとブドウ糖が結合したもので糖尿病と密接な関係があるものが、HbA1c(ヘモグロビン・エイワンシー)。過去1～2カ月の平均的な血糖値を調べる。
9	血液系	①赤血球数(RBC)	男:400～539×10 ⁴ /μℓ 女:360～489×10 ⁴ /μℓ 貧血等の疑いを検査。赤血球の数が減ると必要な量の酸素が送られなくなり、貧血状態になり、逆に数が多すぎると(多血症)、血液の流れが悪くなって血管が詰まりやすくなる。
		②血色素(ヘモグロビン)	男:13.1～16.6 g/dℓ 女:12.1～14.6 g/dℓ 赤血球の酸素を運ぶ蛋白質で、減少すると貧血の疑い。

II がん検診・リスク検査（無料） 1. 2. 4の検査は35歳以上が対象。前立腺がん検査は50歳以上の男性、乳がん検査は40歳以上の女性が対象。かくたん検査は年齢制限がありません。 子宮頸がん検査・HPV検査は20歳以上の女性が対象。

No.	検 査 項 目	検 査 項 目 の 説 明
1	胃がん検査	胃のバリウム検査が受けられない方は、ABC
	ABCリスク検査	胃X線検査(バリウム)。胃がんや食道がんの早期発見につながります。 リスク検査を選択できます。 血液中のピロリ菌抗体(ピロリ菌感染)及びペプシノーゲン値(萎縮性胃炎)の有無を調べる。
2	超音波検査	腹部5臓器、甲状腺 女性:乳腺(健診機関により子宮、卵巣も検査に含まれる場合あり) 腫瘍・結石等の有無を調べる。
3	前立腺がん検査	血液採取のPSA検査 PSAとは健常男性の前立腺から分泌される物質で、前立腺の疾病によって浸出して検査に反応するようになる。
4	大腸がん検査	便潜血2日法
5	肺がん検査	かくたん検査 ※喫煙者・同居家族に喫煙者のいる人・咳や痰の気になる人。
6	乳がん検査	マンモグラフィ2方向 ※40歳以上の女性
7	子宮頸がん検査	内診・子宮頸部細胞診(子宮頸部の細胞を採取し、細胞の異常の有無を確認することによる子宮頸がんを早期発見する。) ※20歳～74歳の女性
8	HPV(ヒトパピローウイルス)検査	子宮頸がん検査で採取した子宮頸部細胞診を利用し、子宮頸がんの原因となるHPV(ヒトパピローウイルス)の有無を確認する。